

			②0、75、150、300 mg/kg 体重 (単回経口投与、投与 12~16 時間後にと殺)	
<i>in vivo</i>	小核試験	ICR マウス (骨髄細胞) (一群雌雄各 5 匹)	0、20、40、80 mg/kg 体重 (単回経口投与) (投与 24、48 及び 72 時間後 と殺)	陰性
	染色体異常 試験	SD ラット (骨髄細胞) (一群雄雌各 5 匹)	0、200、250、300 mg/kg 体重 (単回経口投与)	陰性

注) +/-S9 : 代謝活性化系存在下及び非存在下

* : 代謝活性化系存在下で陽性

代謝物及び原体混在物を用いた各種遺伝毒性試験が実施された。

結果は表 21 に示されている。代謝物 IM-0 に関して、チャイニーズハムスター肺線維芽細胞 (CHL) を用いた *in vitro* 染色体異常試験で陽性との結果が得られたが、代謝活性化系非存在下でのみ陽性であり、また IM-0 のマウスの骨髄細胞を用いた *in vivo* 小核試験の結果が陰性であったことから、IM-0 は生体にとって特段問題となる遺伝毒性はないと考えられた。

その他の代謝物及び原体混在物に関しては、試験結果は全て陰性であり、遺伝毒性はないものと考えられた。(参照 2、4)

表 21 遺伝毒性試験概要 (代謝物及び原体混在物)

試験	対象	処理濃度	結果	
代謝物 IM-0	復帰突然変異 試験*	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、 TA1535、TA1537 株) <i>E. coli</i> WP2 <i>uvrA</i> 株)	313~5,000 µg/プレート (+/-S9)	陰性
	<i>in vitro</i> 染色 体異常試験	チャイニーズハムスタ ー肺線維芽細胞 (CHL)	①1,000~3,000 µg/mL (-S9) (処理時間 24 時間) ②600~1,200 µg/mL (-S9) (処理時間 48 時間) ③2,000~5,000 µg/mL(+/-S9) (処理時間 6 時間)	陽性**
	<i>in vivo</i> 小核試 験	ICR マウス (骨髄細胞) (一群雌雄各 5 匹)	0、325、650、1,300 mg/kg 体重 (単回経口投与) (投与 24、48 及び 72 時間後 と殺)	陰性
代謝物 IM-1-4	復帰突然変異 試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、 TA1535、TA1537 株) <i>E. coli</i> WP2 <i>uvrA</i> 株)	313~5,000 µg/プレート (+/-S9)	陰性
	HGPRT 遺伝 子突然変異試 験	チャイニーズハムスタ ー卵巣由来細胞 (CHO-K1-BH4)	250~3,000 µg/mL(+/-S9)	陰性
	<i>in vivo</i> 小核試 験	ICR マウス (骨髄細胞) (一群雌雄各 6 匹)	0、175、350、700 mg/kg 体重 (単回経口投与) (投与 24、48 及び 72 時間後 と殺)	陰性
代謝物 IM-1-2	復帰突然変異 試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、	313~5,000 µg/プレート (+/-S9)	陰性

IM-1-3 IM-2-1 IM-2-3 IM-2-4 IC-0 IS-1-1 IS-2-1 原体混在物 AM-1 AM-2 AM-4		TA1535、TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)		
---	--	--	--	--

注) +/-S9 : 代謝活性化系存在下及び非存在下

** : 代謝活性化系存在下では陰性

1 4. その他の試験

(1) ラット肝薬物代謝酵素への影響

SD ラット (一群雄 5 匹) にアセタミプリド (原体 : 0 及び 1,000 ppm) あるいはフェノバルビタール (PB : 500 ppm) を 7 日間混餌投与し、肝薬物代謝酵素に対する影響が検討された。

アセタミプリド投与群では、体重増加抑制、摂餌量減少が認められたが、肝重量に影響は認められなかった。PB 投与群では体重及び摂餌量に変化はなかったが、肝絶対及び比重量が増加した。

また両投与群でチトクローム P450、NADPH-チトクローム c 還元酵素、グルクロン酸転移酵素及びアミノピリン N-脱メチル酵素活性が増加し、アセタミプリド投与群ではさらにチトクローム b5 活性も増加したことから、アセタミプリド投与により、肝臓の薬物代謝酵素が誘導されることが確認された。

PCNA 免疫染色では、アセタミプリド投与群で検体投与の影響は認められなかった。(参照 2)

(2) ラットを用いた肝・複製 DNA 合成試験

Fischer ラット (一群雄 4 匹) にアセタミプリドを単回強制経口 (原体 : 0、73、145 mg/kg 体重、溶媒 : 0.5% CMC 溶液) し、投与 24、39 及び 48 時間後に肝細胞を採取し、複製 DNA 合成試験が実施された。

いずれの投与群でも複製 DNA 合成は誘発されず、アセタミプリドは肝発癌プロモーター作用は有しないと考えられた。(参照 2)

(3) 解毒試験

ICR マウス (一群雄 2~19 匹、対照群 : 一群雄 48 匹) にアセタミプリドを単回経口投与 (原体 : 150 mg/kg 体重/日、溶媒 : 1%ポリオキシエチレン硬化ヒマン油生理食塩水溶液) し、投与直後に塩酸ドキサプラム (5 及び 10 mg/kg 体重)、ジモルホラミン (3 及び 10 mg/kg 体重)、ジアゼパム (0.1、0.3 及び 1 mg/kg 体重)、メチル硫酸ネオスチグミン (0.2 mg/kg 体重)、グルタチ

オン（10 及び 30 mg/kg 体重）、グリチルリチン（2 及び 6 mg/kg 体重）または L-メチオニン（20 及び 50 mg/kg 体重）を単回投与（メチル硫酸ネオスチグミンのみ皮下、他は静脈内）し、アセタミプリドの解毒試験が実施された。

グルタチオン、グリチルリチン及び L-メチオニン投与群で死亡率の有意な低下及び中毒症状の緩和が認められた。

また、ICR マウス（一群雄 5～15 匹）にアセタミプリドを単回経口投与（原体：100、120、140、160 及び 180 mg/kg 体重、溶媒：0.5%CMC 溶液）し、直後にグルタチオン（30 及び 100 mg/kg 体重）またはグリチルリチン（6 及び 20 mg/kg 体重）を単回静脈内投与した試験も実施された。

グルタチオン及びグリチルリチン投与群で死亡率の低下が認められ、LD₅₀ 値も改善されたが、LD₅₀ 値の改善は最高でも 1.38 倍程度であった。（参照 2）

Ⅲ. 食品健康影響評価

参照に挙げた資料を用いて、農薬「アセタミプリド」の食品健康影響評価を実施した。

動物体内運命試験の結果、吸収されたアセタミプリドは速やかに排泄された。主要排泄経路は尿中であった。排泄物中の主要成分は代謝物 IM-2-1、IC-0、IS-1-1 及び IS-2-1 であり、親化合物の尿中及び糞中の存在量は少量（8% TAR 未満）であった。

植物体内運命試験の結果、主要成分は親化合物であり、主要な代謝物は IM-2-1、IM-1-4、IM-0、IC-0、IS-1-1、IS-2-1 及び IM-0-Glc であった。代謝物 IM-0-Glc は、植物のみに存在したが、その存在量は 8.3% TAR 以下であった。

アセタミプリドを分析対象化合物として（一部はアセタミプリド及び代謝物の合計量を分析対象として）作物残留試験が実施された。可食部において、アセタミプリドの最高値は、最終散布 14 日後に収穫した茶（荒茶）の 22.5 mg/kg であった。

各種毒性試験結果から、アセタミプリド投与による影響は、主に体重増加量及び肝臓に認められた。発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び生体にとって特段問題となるような遺伝毒性は認められなかった。

各種試験結果から、農産物中の暴露評価対象物質をアセタミプリド（親化合物のみ）と設定した。

各試験における無毒性量等は表 22 に示されている。

各試験で得られた無毒性量の最小値は、ラットを用いた 2 世代繁殖試験の 6.5 mg/kg 体重/日であったが、より長期の試験であるラットを用いた 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験の無毒性量は 7.1 mg/kg 体重/日であった。この差は用量設定の違いによるもので、ラットにおける無毒性量は 7.1 mg/kg 体重/日とするのが妥当であると考えられた。食品安全委員会は、これを根拠として安全係数 100 で除した 0.071 mg/kg 体重/日を一日摂取許容量（ADI）と設定した。

ADI	0.071 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	慢性毒性/発がん性併合試験
(動物種)	ラット
(期間)	2 年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	7.1 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

暴露量については、当評価結果を踏まえて暫定基準値の見直しを行う際に確認することとする。

○参考：急性参照用量（ARfD）*

アセタミプリドの急性的な毒性影響について、諸外国の手法を参考に、急性的な

毒性影響の指標を参考情報として示すこととした。

アセタミプリドの単回投与試験で得られた無毒性量の最小値は、ラットの急性神経毒性試験で得られた 10 mg/kg 体重であったことから、これを安全係数 100 で除した 0.1 mg/kg 体重/日を急性参照用量 (ARfD) とすることが妥当と考えられた。

一度に摂取するアセタミプリドの量がこれを下回る場合、急性的な毒性影響は生じないと考えられた。

急性参照用量 (ARfD)	0.1 mg/kg 体重/日
(設定根拠資料)	急性神経毒性試験
(動物種)	ラット
(投与方法)	単回強制経口
(無毒性量)	10 mg/kg 体重
(安全係数)	100

※：ヒトの 24 時間またはそれより短時間の経口摂取により健康に悪影響を示さないと推定される量

表 22 各試験における無毒性量等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日) 1)	
			農薬抄録	米国
ラット	90 日間 亜急性 毒性試験	0、50、100、200、800、 1,600 ppm 雄：0、3.1、6.0、12.4、 50.8、99.9 雌：0、3.7、7.2、14.6、 56.0、117	雄：12.4 雌：14.6 雌雄：体重増加抑制等	雄：12.4 雌：14.6 雌雄：体重増加抑制等
	90 日間 亜急性神 経毒性試 験	0、100、200、800、1,600 雄：0、7.4、14.8、59.7、 118 雌：0、8.5、16.3、67.6、 134	雄：14.8 雌：16.3 雌雄：体重増加抑制等 (神経毒性は認められない)	雄：14.8 雌：16.3 雌雄：体重増加抑制等 (神経毒性は認められない)
	2 年間 慢性毒性/ 発がん性 併合試験	0、160、400、1,000 ppm 雄：0、7.1、17.5、46.4 雌：0、8.8、22.6、60.0	雄：7.1 雌：8.8 雄：肝細胞肥大 雌：体重増加抑制及び摂餌量 減少 (発がん性は認められない)	雄：7.1 雌：8.8 雄：肝細胞空胞化 雌：体重増加抑制及び摂餌量 減少 乳腺腺癌が用量相関的に増加
	2 世代 繁殖試験 ①	0、100、280、800 ppm P 雄：0、6.67、18.9、54.6 P 雌：0、8.42、23.1、66.5 F ₁ 雄：0、7.6、21.5、65.0 F ₁ 雌：0、9.4、27.0、87.1	親動物 P 雄：6.67 F ₁ 雄：7.60 P 雌：8.42 F ₁ 雌：9.40 児動物 P 雄：18.9 F ₁ 雄：21.5 P 雌：23.1 F ₁ 雌：27.0 親動物 雌雄：体重増加抑制等 児動物：体重増加抑制、生存 率低下 (繁殖能に対する影響は認 められない)	
	2 世代 繁殖試験 ②	0、100、280、800 ppm P 雄：0、6.5、17.9、51.0 P 雌：0、7.6、21.7、60.1 F ₁ 雄：0、7.5、21.0、63.3 F ₁ 雌：0、8.4、23.8、72.6	親動物 P 雄：6.5 F ₁ 雄：7.5 P 雌：21.7 F ₁ 雌：23.8 児動物 P 雄：17.9 F ₁ 雄：21.0 P 雌：21.7 F ₁ 雌：23.8 親動物 雌雄：体重増加抑制等 児動物：生存率低下等 繁殖能：児動物生存率及び離 乳率の低下 (繁殖能に対する影響は認 められない)	親動物、児動物及び繁殖能 P 雄：17.9 F ₁ 雄：21.0 P 雌：21.7 F ₁ 雌：23.8 親動物 雌雄：体重増加抑制 児動物 雌雄：低体重等 繁殖能 新生児重量の減少等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日) 1)	
			農薬抄録	米国
	発生毒性試験	0、5、16、50	母動物：16 胎児：16 母動物：体重増加抑制等 胎児：13 肋骨の短縮化 (催奇形性は認められない)	母動物：16 胎児：16 母動物：体重増加抑制等 胎児：13 肋骨の短縮化
	発達神経毒性試験	0、2.5、10、45	一般毒性 親動物及び児動物：10 親動物及び児動物：体重増加抑制 発達神経毒性：10 聴覚驚愕反応の抑制	一般毒性 親動物及び児動物：10 親動物及び児動物：体重増加抑制 発達神経毒性：10 聴覚驚愕反応の抑制
マウス	90日間 亜急性 毒性試験	0、400、800、1,600、 3,200 ppm 雄：0、53.2、106、211、 430 雌：0、64.6、129、249、 466	雄：53.2 雌：64.6 雌雄：肝比重量増加 雌：T.Chol 減少等	雄：106 雌：129 雌雄：体重増加抑制及び臓器 重量変化等
	18ヵ月間 発がん性 試験	0、130、400、1,200 ppm 雄：0、20.3、65.6、186 雌：0、25.2、75.9、215	雄：20.3 雌：25.2 雌雄：体重増加抑制等 (発がん性は認められない)	雄：20.3 雌：75.9 雌雄：体重増加抑制等 (発がん性は認められない)
ウサギ	発生毒性 試験	0、7.5、15、30	母動物：15 胎児：30 母動物：体重増加抑制及び摂 餌量減少 胎児：毒性所見なし (催奇形性は認められない)	母動物：15 胎児：30 母動物：体重増加抑制及び摂 餌量減少 胎児：毒性所見なし (催奇形性は認められない)
イヌ	90日間 亜急性 毒性試験	0、320、800、2,000 ppm 雄：0、13、32、58 雌：0、14、32、64	雌雄：32 雌雄：体重増加抑制及び摂餌 量減少	雄：13 雌：14 雌雄：体重増加抑制及び摂餌 量減少
	1年間 慢性毒性 試験	0、240、600、1,500 ppm 雄：0、9、20、55 雌：0、9、21、61	雄：20 雌：21 雌雄：体重増加抑制及び摂餌 量減少	雄：20 雌：21 雌雄：体重増加抑制及び摂餌 量減少
ADI (cRfD)			NOAEL：7.1 ADI：0.071 SF：100	NOAEL：7.1 cRfD：0.071 UF：100
ADI 設定根拠資料			ラット2年間慢性毒性/ 発がん性併合試験	ラット2年間慢性毒性/ 発がん性併合試験

－：無毒性量を設定できず

NOAEL：無毒性量 SF：安全係数 ADI：一日摂取許容量 cRfD：慢性参照用量 UF：不確実係数

1)：無毒性量欄には、最小毒性量で認められた主な毒性所見等を記した。

<別紙1：代謝物/分解物及び原体混在物略称>

記号	化学名
IM-1-2	<i>N</i> ² -カルバモイル- <i>N</i> ² -[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]- <i>N</i> ² -メチルアセトアミジン
IM-1-3	<i>N</i> [(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]- <i>N</i> メチルアセトアミド
IM-1-4	<i>N</i> メチル(6-クロロ-3-ピリジル)メチルアミン
IM-0	(6-クロロ-3-ピリジル)メタノール
IM-2-1	<i>N</i> ² -[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]- <i>N</i> ² -シアノアセトアミジン
IM-2-2	<i>N</i> ² -カルバモイル- <i>N</i> ² -[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]アセトアミジン (IM-2-1 amide)
IM-2-3	<i>N</i> [(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]アセトアミド
IM-2-4	(6-クロロ-3-ピリジル)メチルアミン
IC-0	6-クロロニコチン酸
IM-0-Glc	(6-クロロ-3-ピリジル)メチル-β-D-グルコピラノシド (IM-0のグルクロン酸抱合体)
IS-1-1	<i>N</i> ² -シアノ- <i>N</i> ² -メチルアセトアミジン
IS-2-1	<i>N</i> ² -シアノアセトアミジン
MeS-IC-0	6-メチルチオニコチン酸
AS-IC-0	6-ヒドロキシカルボニルメチルチオニコチン酸
IC-0-Gly	6-クロロニコチヌール酸 (IC-0のグリシン抱合体)
IB-1-1	<i>N</i> ² -シアノ- <i>N</i> ² -メチル- <i>N</i> ² -[(2-アザ-3-オキソビシクロ[2,2,0]ヘキシ-5-エン-6-イル)メチル]-アセトアミジン
AM-1	(原体混在物)
AM-2	(原体混在物)
AM-4	(原体混在物)

<別紙2：検査値等略称>

略称	名称
ACh	アセチルコリン
ai	有効成分量
ALP	アルカリホスファターゼ
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ (=グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼ (GPT))
AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (=グルタミン酸オキサロ酢酸トランスアミナーゼ (GOT))
BUN	血液尿素窒素
ChE	コリンエステラーゼ
C _{max}	最高濃度
CMC	カルボキシメチルセルロース
FOB	機能観察総合評価
Glob	グロブリン
Glu	グルコース (血糖)
Hb	ヘモグロビン (血色素量)
His	ヒスタミン
IC ₅₀	(酵素) 活性の 50%抑制濃度
LC ₅₀	半数致死濃度
LD ₅₀	半数致死量
NTE	神経障害標的エステラーゼ
PB	フェノバルビタール
PCNA	増殖性細胞核抗原
PHI	最終使用から収穫までの日数
T _{1/2}	消失半減期
TAR	総投与 (処理) 放射能
T.Chol	総コレステロール
T _{max}	最高濃度到達時間
TRR	総残留放射能

<別紙3：作物残留試験成績>

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					アセタミプリド					
					公的分析機関		社内分析機関			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
とうもろこし (種子) 1996年度	1	200 ^{SP} ×3	3	14	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
				21	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
	28			<0.04	<0.04	<0.05	<0.05			
	1			14	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
21	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05						
28	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05						
未成熟 とうもろこし (種子) 1996年度	1	200 ^{SP} ×3	3	14	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
				21	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
	28			<0.04	<0.04	<0.05	<0.05			
	1			14	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
21	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05						
28	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05						
未成熟 とうもろこし (種子) 2006年度	1	90 ^L ×3	3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
				21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	28			<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
	1			14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05						
28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05						
あずき (種子) 1997年度	1	150 ^{SP} ×3	3	21	<0.05	<0.05	0.07	0.06*		
				28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	35			<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
	1			21	0.30	0.30	0.61	0.60		
28	0.36	0.36	0.59	0.58						
35	0.18	0.18	0.40	0.38						
ばれいしょ ^b (塊茎) 1993年度	1	200 ^{SP} ×3	3	14	<0.01	<0.01	0.01	0.01		
				21	0.02	0.02	0.02	0.02		
	1	300 ^{SP} ×3	3	14	<0.01	<0.01	0.01	0.01		
				21	0.01	0.01	0.06	0.06		
ばれいしょ (塊茎) 1998年度	1	1,200 ^G + 200 ^{SP} ×3	4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
				21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1			90 ^L ×3	4	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
						14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05						
さといも (塊根) 2000年度	1	1,200 ^G	1	183	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
				190	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	197			<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
	1			160	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
167	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05						
174	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05						
やまいも (塊根) 1995年度	1	200 ^{SP} ×3	3	7	<0.01	<0.01	0.01	0.01		
				14	<0.01	<0.01	0.01	0.01		
				21	<0.01	<0.01	0.01	0.01		
	1			90 ^L ×3	3	7	<0.01	<0.01	0.01	0.01
						14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					アセタミプリド			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
こんにゃく いも (球茎) 2002年度	1	600 ^G	1	136	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				142	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				150	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	1			134	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				141	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				148	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
てんさい (塊茎) 1997年度	1	100 ^{SP}	1	167	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	1			162	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
だいこん ^b (根部) 1993年度	1	800 ^G	1	42	0.03	0.03	0.02	0.02
	1			70	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1	100~ 200 ^{SP}	1	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				32	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1	200 ^{SP}	1	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
21				<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
30				<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
だいこん ^b (葉部) 1993年度	1	800 ^G	1	42	0.18	0.17	0.30	0.28
	1			70	0.04	0.03	0.03	0.03
	1	100~ 200 ^{SP}	1	14	0.06	0.06	<0.01	<0.01
				21	0.04	0.04	0.05	0.04
				32	0.02	0.02	0.04	0.04
	1	200 ^{SP}	1	14	0.25	0.24	0.12	0.12
21				0.07	0.06	0.10	0.10	
30				0.02	0.02	0.02	0.02	
だいこん (つまみ菜) (間引き菜) 1993年度	1	800 ^G	1	20			0.510	0.490
	1			26			0.021	0.020
はつか だいこん (根部) 2006年度	1	150 ^{SP}	1	14			<0.01	<0.01
				21			<0.01	<0.01
	1			14			<0.01	<0.01
				21			<0.01	<0.01
はつか だいこん (葉部) 2006年度	1	150 ^{SP}	1	14			<0.05	<0.05
				21			<0.05	<0.05
	1			14			<0.05	<0.05
				21			<0.05	<0.05
かぶ (根部) 2004年度	1	242 ^{SP} または 307 ^{SP}	1	21	0.03	0.02	0.02	0.02
				28	0.01	0.01	0.01	0.01
	1			21	0.02	0.02	<0.01	<0.01
				28	0.01	0.01	<0.01	<0.01
かぶ (葉部) 2004年度	1	242 ^{SP} または 307 ^{SP}	1	21	1.02	1.02	0.97	0.94
				28	0.59	0.59	0.80	0.80
	1			21	1.59	1.57	1.07	1.06
				28	0.92	0.91	1.06	1.02
西洋わさび (茎葉) 2003年度	1	150 ^{SP}	1	7			<0.01	<0.01
				14			<0.01	<0.01
				21			<0.01	<0.01
	1			7			<0.01	<0.01
				14			<0.01	<0.01
				21			<0.01	<0.01
はくさい ^b (茎葉) 1993年	1	0.04 ^G g ai/株 +	4	14	0.09	0.08	0.15	0.15
				21	0.05	0.04	0.06	0.06
				28	0.05	0.05	0.04	0.04

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					アセタミプリド					
					公的分析機関		社内分析機関			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
	1	128~ 300 ^{SP} ×3		14	0.18	0.18	0.17	0.16		
				21	0.13	0.12	0.16	0.16		
				28	0.08	0.08	0.09	0.08		
キャベツ ^b (葉球) 1992年度	1	0.04 ^G g ai/株 + 300 ^{SP} ×5	6	7	0.42	0.40	1.18	1.09		
				14	0.41	0.40	0.69	0.66		
				21	0.48	0.46	0.77	0.75		
	1	300 ^{SP} ×5	6	7	0.43	0.42	0.90	0.90		
				14	0.22	0.21	0.55	0.53		
				21	0.20	0.19	0.34	0.34		
キャベツ ^b (葉球) 1993年度	1	0.04 ^G g ai/株 + 300 ^{SP} ×3	4	14	0.14	0.14	0.25	0.24		
				21	0.10	0.10	0.19	0.18		
				28	0.10	0.09	0.09	0.09		
	1	300 ^{SP} ×3	4	14	0.27	0.26	0.42	0.42		
				21	0.20	0.20	0.33	0.30		
				28	0.15	0.15	0.29	0.29		
メキャベツ (芽球) 2003年度	1	200 ^{SP}	1	13	<0.05	<0.05				
				20	<0.05	<0.05				
	1			200 ^{SP}	1	7	0.10	0.10		
						14	<0.05	<0.05		
こまつな (茎葉) 1998年度	1	75 ^{SP}	1	3	2.46	2.46				
				7	1.04	1.04				
				14	0.10	0.10				
	1			75 ^{SP}	1	3	1.49	1.49		
						7	1.44	1.44		
						14	0.55	0.54		
	1			75 ^{SP}	1	3	1.24	1.14		
						7	0.81	0.69		
						14	0.14	0.12		
	1			75 ^{SP}	1	3	2.54	2.42		
						7	1.82	1.76		
						14	0.67	0.66		
みずな (茎葉) 1998年度	1	100 ^{SP}	1	7	1.04	1.00	0.45	0.44		
				14	0.44	0.43	0.20	0.20		
	1			100 ^{SP}	1	7	2.31	2.25	0.55	0.54
						14	1.80	1.79	0.59	0.58
みずな (茎葉) 1998年度	1	100 ^{SP} ×2	2	7	1.50	1.44	0.74	0.74		
				14	0.62	0.62	0.41	0.40		
	1			100 ^{SP} ×2	2	7	1.80	1.75	0.59	0.57
						14	1.14	1.14	0.50	0.50
チンゲンサイ (茎葉) 1997年	1	0.02 ^G g ai/株 + 200 ^{SP}	2	7	2.61	2.56	2.63	2.60		
				14	2.48	2.40	2.73	2.72		
	1			0.02 ^G g ai/株 + 200 ^{SP}	2	7	0.94	0.90		
						14	0.64	0.62		
	1			0.02 ^G g ai/株 + 200 ^{SP}	2	7	1.31	1.22		
						14	0.68	0.62		
カリフラワー (花蕾) 2004,2005 年度	1	200、 266.7~ 300 ^{SP} ×3	3	7	0.18	0.18	0.12	0.12		
				14	0.08	0.08	0.13	0.13		
				21	<0.05	<0.05	0.13	0.13		
	1			200、 266.7~ 300 ^{SP} ×3	3	7	0.36	0.34	0.18	0.18
						14	0.14	0.13	0.15	0.14
						21	0.07	0.06	0.09	0.08
ブロッコリー ^b (花蕾) 1994年度	1	0.04 ^G g ai/株 +	4	14	0.38	0.36	0.27	0.26		
				21	0.29	0.28	0.22	0.22		
				27	0.12	0.11	0.12	0.12		

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)						
					アセタミプリド						
					公的分析機関		社内分析機関				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
	1	300 ^{SP} ×3		14	0.54	0.52	0.66	0.64			
				21	0.31	0.31	0.26	0.26			
				28	0.18	0.18	0.19	0.18			
茎ブロッコリー (花蕾及び茎) 2003年度	1	100 ^{SP} ×2	2	1	0.42	0.40					
				3	0.32	0.31					
				7	0.14	0.14					
	14			<0.05	<0.05						
	1			1	0.13	0.12					
				3	0.09	0.08					
7		<0.05	<0.05								
なずな (茎葉) 2004年	1	50 ^{SP}	1	7	0.23	0.24					
				14	0.21	0.22					
				21	0.17	0.18					
	1			7	0.47	0.48					
				14	0.34	0.29					
				21	0.23	0.24					
非結球キャベツ (えき芽葉) (本葉) 2004年	1	200 ^{SP} ×2	2	7	0.60	0.60					
				14	0.18	0.18					
				21	0.17	0.17					
	1			7	0.69	0.68					
				14	0.54	0.54					
				21	0.28	0.28					
	1			7	0.88	0.88					
				14	0.32	0.32					
				21	0.37	0.37					
	1			7	2.91	2.85					
				14	1.96	1.95					
				21	2.25	2.24					
ひこしま はるな (茎葉) 2004年度	1	0.02 ^G g ai/株	1	53	<0.1	<0.1					
				60	<0.1	<0.1					
				67	<0.1	<0.1					
	1			54	<0.1	<0.1					
				61	<0.1	<0.1					
				68	<0.1	<0.1					
しゅんぎく (茎葉) 2002年度	1	37.5、 75 ^{SP} ×2	2	14	2.07	2.02	1.78	1.72			
				21	0.97	0.93	0.79	0.77			
				14	0.37	0.36	0.40	0.39			
	1			21	0.33	0.32	0.36	0.34			
				1	150~ 250 ^{SP} ×3	3	7	0.04	0.04	0.09	0.08
							14	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
21	<0.01	<0.01	<0.05				<0.05				
1	200 ^{SP} ×3	3	7	0.08			0.08	0.32	0.31		
			14	0.05			0.05	<0.05	<0.05		
			21	0.09			0.09	0.08	0.08		
レタス (茎葉) 1996年度			1	0.04 ^G g ai/株 + 80.8~ 200 ^{SP} ×3	4	7	0.54	0.54	0.46	0.46	
						14	0.47	0.46	0.39	0.38	
						21	0.09	0.08	0.08	0.08	
	1	7	0.36			0.34	0.09	0.09			
		14	<0.04			<0.04	0.07	0.06			
		21	<0.04			<0.04	0.08	0.08			
リーフレタス (茎葉) 2004年度	1	0.01 ^G g ai/株 +	4	7	1.61	1.58	1.72	1.68			
				14	0.52	0.52	0.53	0.48			
				21	0.13	0.13	0.12	0.11			

作物名 (分析部位) 実施年	試験圃 場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg) アセタミプリド											
					公的分析機関		社内分析機関									
					最高値	平均値	最高値	平均値								
	1	123~ 129 ^{SP}		7	1.50	1.48	1.23	1.20								
				14	0.12	0.12	0.09	0.08								
				21	<0.05	<0.05	0.06	0.06								
ロメイン レタス (茎葉) 2004年度	1	0.01 ^G g ai/株 + 100~ 150 ^{SP}	2	7	0.73	0.73	1.47	1.44								
				14	1.31	1.29	2.73	2.67								
				21	0.20	0.20	0.34	0.34								
	1	7	0.67	0.66	1.06	1.02	14	0.59	0.58	0.50	0.50					
												21	0.34	0.34	0.17	0.16
くきちしゃ (茎葉) 2005年度	1	75 ^{SP} ×2	2	7	<0.05	<0.05										
				14	<0.05	<0.05										
				21	<0.05	<0.05										
	1	7	0.67	0.66	1.06	1.02	14	0.59	0.58	0.50	0.50					
												21	0.34	0.34	0.17	0.16
食用ぎく (花卉) 1996年度	1	150~ 200 ^{SP} ×2	2	14	1.27	1.26										
	1			14	0.45	0.44										
	1			14	0.89	0.87										
	1			14	0.49	0.48										
ははこぐさ (茎葉) 2004年度	1	50 ^{SP}	1	7	0.34	0.32										
				14	0.26	0.26										
				21	0.18	0.18										
	1	7	0.85	0.77	1.06	1.02	14	0.50	0.44	0.50	0.50					
												21	0.29	0.30		
ふき (葉柄) 2005年度	1	0.04 ^G g ai/株 + 200 ^{SP} ×2	3	14			0.11	0.10								
				21			<0.05	<0.05								
				28			<0.05	<0.05								
	1	7	0.67	0.66	1.06	1.02	14	0.59	0.58	0.50	0.50					
												21	0.34	0.34	0.17	0.16
ふき (葉柄) 2003年度	1	0.04 ^G g ai/株	1	82	<0.05	<0.05										
				89	<0.05	<0.05										
				96	<0.05	<0.05										
	1	7	0.67	0.66	1.06	1.02	14	0.59	0.58	0.50	0.50					
												21	0.34	0.34	0.17	0.16
たまねぎ (鱗茎) 1998年度	1	150 ^{SP} ×3	3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05								
				14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05								
				21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05								
	1	7	0.67	0.66	1.06	1.02	14	0.59	0.58	0.50	0.50					
												21	0.34	0.34	0.17	0.16
葉ねぎ (茎葉) 1995年度	1	150 ^{SP} ×3	3	7	0.13	0.13	0.15	0.14								
				14	0.06	0.06	<0.05	<0.05								
				28	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05								
	1	7	0.67	0.66	1.06	1.02	14	0.59	0.58	0.50	0.50					
												21	0.34	0.34	0.17	0.16
葉ねぎ (茎葉) 1999年度	1	1,200 ^G	3	7			<0.05	<0.05								
				14			<0.05	<0.05								
				28			<0.05	<0.05								

作物名 (分析部位) 実施年	試験圃 場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					アセタミプリド			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
	1			7	/	/	<0.05	<0.05
				14			<0.05	<0.05
				28			<0.05	<0.05
根深ねぎ (茎葉) 1995年度	1	150 ^{SP}	3	7	/	/	<0.05	<0.05
				14			<0.05	<0.05
				28			<0.05	<0.05
	1			7	/	/	<0.05	<0.05
				14			<0.05	<0.05
				28			<0.05	<0.05
根深ねぎ (茎葉) 1999年度	1	1,200 ^G	3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	1			7	<0.05	<0.05	0.21	0.20
				14	<0.05	<0.05	0.05	0.05
				28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
にら (茎葉) 1998年度	1	150 ^{SP} ×3	3	1	1.47	1.46	0.48	0.47
				3	1.05	1.00	0.67	0.67
				7	0.64	0.62	0.37	0.36
	1			1	1.84	1.84	1.82	1.71
				3	1.58	1.52	1.11	1.05
				7	0.60	0.58	0.30	0.29
にら (茎葉) 1998年度	1	75 ^{SP} ×3	3	1	1.47	1.46	0.48	0.47
				3	1.05	1.00	0.67	0.67
				7	0.64	0.62	0.37	0.36
	1			1	1.84	1.84	1.82	1.71
				3	1.58	1.52	1.11	1.05
				7	0.60	0.58	0.30	0.29
アスパラガス (茎) 1999、2000 年度	1	200 ^{SP} ×2	2	1	0.17	0.16	0.20	0.20
				3	0.06	0.06	0.09	0.08
				7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	1			1	0.07	0.07	0.07	0.06
				3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
わけぎ (茎葉) 2003年度	1	1,200 ^G + 150 ^{SP} ×3	4 ^a	7	0.42	0.40	0.41	0.39
				14	0.16	0.15	<0.05	<0.05
				21	0.12	0.12	<0.05	<0.05
	1	1,200 ^G + 300 ^{SP} ×3		7	1.37	1.36	1.02	1.02
				14	0.38	0.38	0.69	0.68
				21	0.30	0.30	0.09	0.08
	1	1,200 ^G + 139 ^{SP} ×3		7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	1	1,200 ^G + 278 ^{SP} ×3		7	0.15	0.14	0.09	0.09
				14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
食用ゆり (鱗茎) 2004年	1	75、 100 ^{SP} ×4	4	1	/	/	<0.05	<0.05
				7			<0.05	<0.05
				14			<0.05	<0.05
	1			1	/	/	<0.05	<0.05
				7			<0.05	<0.05
				14			<0.05	<0.05
らっきょう (鱗茎) 2003、2004、	1	150、 200 ^{SP} ×3	3	14	/	/	<0.01	<0.01
				21			<0.01	<0.01
				28			<0.01	<0.01

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)				
					アセタミプリド				
					公的分析機関		社内分析機関		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
2005年度	1			14	0.03	0.03			
	1			14	<0.02	<0.02			
パセリ (茎葉) 2004年度	1	50 ^{SP}	1	3	1.10	1.10			
				7	0.12	0.12			
				14	0.04	0.04			
	1			3	0.39	0.39			
				7	0.15	0.14			
				14	0.02	0.02			
セルリー (茎葉) 2005年度	1	0.01 ^G g ai/株	1	57	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
				64	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
				71	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
	1			86	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
				93	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
				100	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
みつば (茎葉) 2001年度	1	37.5、 50 ^{SP}	1	7	1.01	0.97	0.52	0.51	
				14	0.36	0.36	0.18	0.18	
				21	0.02	0.02	<0.05	<0.05	
	1			7	1.93	1.82	1.21	0.17	
				14	0.56	0.45	0.45	0.44	
				21	0.49	0.47	0.36	0.36	
トマト ^b (果実) 1993年度	1	300 ^{SP} ×2	2	1	0.32	0.32	0.30	0.30	
				3	0.37	0.36	0.24	0.24	
				7	0.43	0.42	0.13	0.13	
	1			1	0.23	0.23	0.19	0.18	
				3	0.19	0.18	0.19	0.18	
				7	0.16	0.16	0.16	0.16	
	1			1			0.22	0.21	
				3			0.21	0.20	
	7			0.18	0.18				
	1			1			0.44	0.42	
	3			3			0.47	0.45	
	7			7			0.48	0.46	
トマト (果実) 1996年度	1	0.04 ^G g ai/株 + 200 ^{SP} ×2	3	1	0.20	0.20	0.12	0.12	
				3	0.09	0.09	0.19	0.18	
				7	0.13	0.13	<0.05	<0.05	
	1			1	0.15	0.14	0.18	0.18	
				3	0.19	0.18	0.20	0.20	
				7	0.14	0.14	0.13	0.12	
トマト ^b (果実) 1993年度	1	18.8 mg ai/m ³ ×2 くん煙	2	1	0.02	0.02	0.01	0.01	
				3	0.02	0.02	0.02	0.02	
				7	0.03	0.02	0.02	0.02	
	1			1	0.02	0.02	0.03	0.03	
				3	0.04	0.04	0.04	0.04	
				7	0.03	0.03	0.04	0.04	
トマト (果実) 1997年度	1	0.04 ^G g ai/株 + 0.02 ^G g ai/株 ×2	3	1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
				7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
				14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
				21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
		1			28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
					1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
					7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
					14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05				
	28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05				